

J. Jpn. Bot. 91: 107–108 (2016)

門田裕一：イワギキョウ（キキョウ科）の八重咲き 1 新品種

国立科学博物館植物研究部

Yuichi KADOTA: A New Double-Flowered Form of *Campanula lasiocarpa* (Campanulaceae)

Department of Botany, National Museum of Nature and Science, 4-1-1, Amakubo, Tsukuba, 305-0005 JAPAN

E-mail: kadota58@gmail.com

Summary: A new, double-flowered form of *Campanula lasiocarpa* Cham. (Campanulaceae), f. *duplex* Kadota, is described based on the collections from Mt. Kita-dake, the Akaishi Mountain Range, central Honshu, Japan. Although *C. lasiocarpa* ranges widely from the central part of Honshu Island, Japan to Alaska, via the Kuriles and the Aleutians, such double-flowered forms have never been found.

キキョウ科のイワギキョウ *Campanula lasiocarpa* Cham. は高さ 10 cm ほどの小型の多年草で、岩がちの草地に生える、日本の代表的な高山植物の一つである。1994 年 8 月、東京都三鷹市の知見威男氏からイワギキョウの八重咲き品が国立科学博物館植物研究部に送られてきた。これは南アルプス北岳の肩付近で、知見威男氏と森本



Fig. 1. *Campanula lasiocarpa* Cham. f. *duplex*, a new double-flowered form, from Mt. Kita-dake, alt. ca. 3000 m, Yamanashi Pref., Honshu, Japan (photo by Mr. Itsuo Chiken, on 22 Aug. 1990).

図 1. キタダケヤエイワギキョウ。南アルプス北岳稜線部（知見威男氏撮影，22 Aug. 1990）。

聖治氏が発見されたものである。それ以来、知見氏に北岳周辺地域で継続的な調査をお願いしてきた。それは、この植物が偶発的な奇形品であるのか、それとも遺伝的に安定したものであるのかを確かめていただくことが目的であった。

イワギキョウは国内では本州中部地方から北海道に分布し、同属のチシマギキョウ *C. chamissonis* Fed. と同所的に生育することが多い。イワギキョウはチシマギキョウと同じような分布域を示すが、経験的にも、前者は明らかに後者よりも分布域が狭くかつ個体数も少ない。知見氏に依頼した南アルプスでの調査と平行して、著者もイワギキョウの他の国内産地において、八重咲き品の出現状況を調べてきた。

その結果、北岳周辺では八重咲き品は絶えることなく維持されていること、一方、北岳以外の国内での産地では八重咲き品は全く見出すことができなかった。イワギキョウは千島列島からカムチャツカ、アリューシャン列島を經由してアラスカまで分布する、「北太平洋要素の植物」である。分布域はかなりの広範囲に及ぶが、八重咲き品の記録もなく、記載されてもいないことが明らかになった。

そこで以下のようにこの八重咲き品を1新品種として記載する。

Campanula lasiocarpa Cham. in *Linnaea* 4: 39 (1829).

f. *duplex* Kadota, f. nov.

Type: JAPAN. Honshu. Yamanashi Pref., Minami-Arupusu-shi (formerly Minami-Koma-gun, Ashiyasu-mura), the Akaishi Mountain Range, Mt. Kita-dake, alt. ca. 3000 m, 20 August 1999, Itsuo Chiken s.n. (TNS 749611, D-holotype).

Flowers double. Staminal filaments metamorphosed into petal-like structures.

新和名：キタダケヤエイワギキョウ（北岳八重岩桔梗，知見新称）。

重弁化に貢献しているのは雄蕊である。5本の花糸が広がり、花弁様に変形している。これが直接の原因かどうかは不明だが、花糸の弁化に伴い、葯の形態も大きく崩れ、正常な花粉を作らない。こうしたことが花形成のプランを阻害しているのか、雌しべの柱頭も構造が大きく変形し、正常な柱頭としての機能を失っている可能性がある。これらのことはキタダケヤエイワギキョウが無性的な繁殖を行っていることを示唆している。

キタダケヤエイワギキョウについてさまざまな情報をお寄せいただいた、知見威男氏に感謝申し上げます。

摘 要

イワギキョウ（キキョウ科）の八重咲き品種を、南アルプス北岳産の標本にもとづいて、キタダケヤエイワギキョウ *Campanula lasiocarpa* Cham. f. *duplex* Kadota として記載した。